

## 図でよくわかる材料力学 正誤表

(本書をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書には下記のような誤記がありました。ここに謹んでお詫び申し上げ、訂正いたします。)

① 29 ページ 式(2.7)  $a\varepsilon_a + b\varepsilon_b = \frac{aP_a}{AE} + \frac{bP_b}{AE}$  (右辺を訂正)

② 32 ページ 脚注†1 「軸力：軸力軸方向」は「軸力：軸方向」と訂正

③ 35 ページ 最下行 「また、その下は」は「また図(b)は」と訂正

④ 45 ページ 式(3.3) 「…または  $F = R_1 - \int_0^x w(t)tdt$ 」を「…または  $F = R_1 - \int_0^x w(t)dt$ 」と訂正 (積分の中の「t」を削除)

⑤ 59 ページ 表 3.1 上から 1 番目の長方形の「断面二次モーメント  $I$ 」の式は、

$$\frac{1}{12}bh^3$$

上から 3 番目の正方形の「断面二次モーメント  $I$ 」の式は、

$$\frac{1}{12}h^4$$

上から 3 番目の正方形の「断面係数  $Z$ 」の式は、

$$\frac{\sqrt{2}}{12}h^3$$

⑥ 65 ページ 式(3.11)  $i = \dots$  の式に-(マイナス)を追記

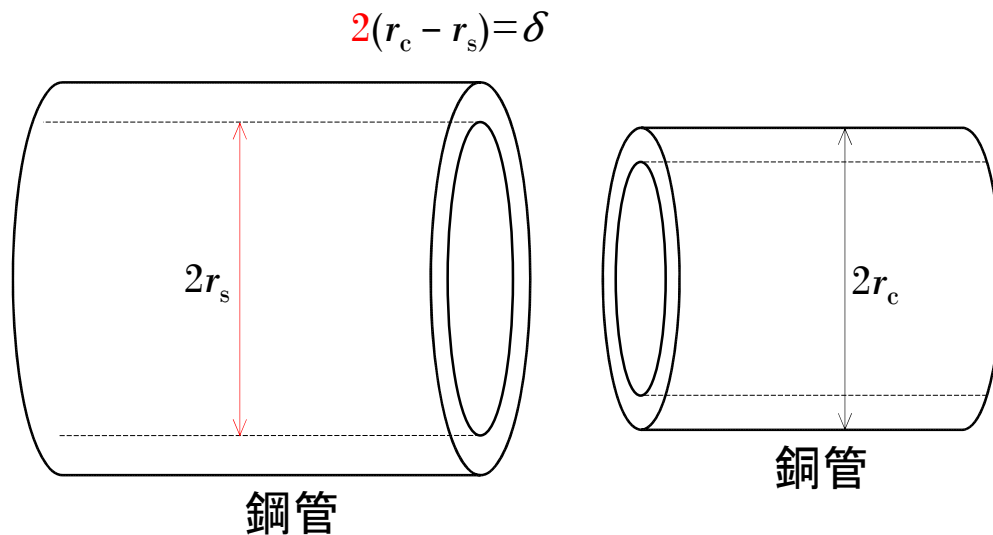
$$i = -\int \frac{M(x)}{EI} dx$$

⑦ 68 ページ 上から二つ目の式 (4 行目)、 $v = \dots$  の式に-(マイナス)を追記

$$v = -\iint \frac{W}{2EI} x dx dx$$

⑧ 73 ページ 下から 5 行目、「作動歯車」は「差動歯車」と訂正

- ⑨ 100 ページ 図 5.9 を下図に訂正 (左の鋼管の中の矢印が内径を示すように訂正し、図の上部にある式を「 $2(r_c - r_s) = \delta$ 」に訂正する)



- ⑩ 106 ページ 式(5.26)の2行目の式

$$\varepsilon_y' = \varepsilon_x \sin^2 \theta + \varepsilon_y \cos^2 \theta - \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

と訂正

- ⑪ 106 ページ、下から4行  $\gamma_{xy}'$  において ' を削除

- ⑫ 111 ページ

[1] 円孔縁での応力分布 の次の行 (下から7行目)

「…直径  $a$  の円孔を有する板幅  $b$  の板が, …」は「直径  $2a$  の円孔を有する板幅  $2b$  の板が, …」と訂正。

最後の行、「 $P/(bt)$ 」を「 $P/(2bt)$ 」と訂正

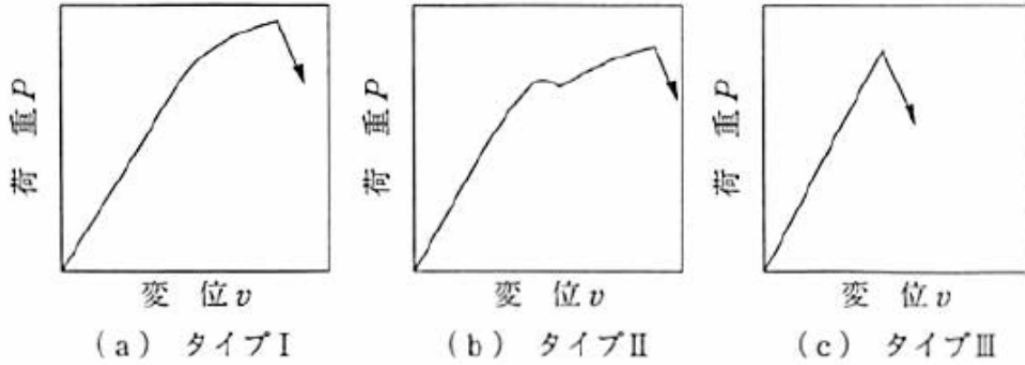
- ⑬ 113 ページ、図 6.2 の下の行 「 $a/b$  が小さくなる」は「 $a/b$  が大きくなる」と訂正

- ⑭ 155 ページ、3行目 「このとき、き裂応力拡大係数は」は「このとき、応力拡大係数は」と訂正 (「き裂」を削除)

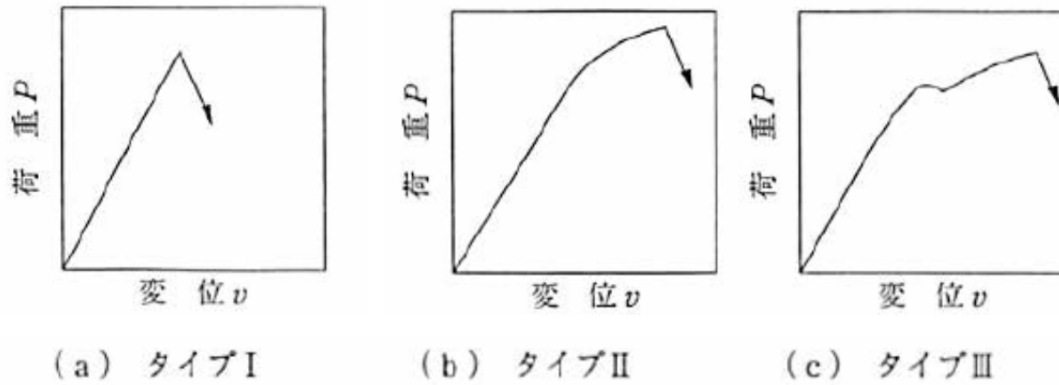
⑮ 155 ページ、下から 3 行目、「ハンドブック」には脚注が必要

\*2 日本材料学会編 STRESS INTENSITY FACTOR HANDBOOK vol.1-5,  
Pergamon Press

⑯ 159 ページ図 8.9 の(c)を(a)タイプ I に、(a)を(b)タイプ II に、(b)を(c)タイプ III に、それぞれ変更、すなわち



を



と変更。

⑰ 169 ページ、演習問題の解答 (上から 12 行目)

$$P_1 = P_3 = \frac{(AE\delta - Pa)}{\ell} \quad P_2 = \frac{AE\delta + P(\ell - a)}{\ell}$$

と、 $P_1 = \dots$ の式の右辺の分子の「 $-2Pa$ 」を「 $-Pa$ 」に、 $P_2 = \dots$ の式の右辺の分子の「 $-2a$ 」を「 $-a$ 」に訂正